



知られざる身近な世界の宝

今こそ南アルプスの魅力を発信

多彩で豊かな自然に恵まれた静岡県は、その環境と魅力を後世に残すため、「ふじのくに生物多様性地域戦略」を策定し、取り組みを進めている。今回は、その先陣を切る「南アルプス」の夢のプロジェクトを紹介する。

「生命の宝箱」南アルプス

地球上では無数の生物が多様な生態系を形成し、複雑につながり合っている。その「生物多様性」の保全が世界的な課題となる中、県は平成30年に「ふじのくに生物多様性地域戦略」を策定し、いつまでも人と自然が共生できる理想郷「ふじのくに」を目指して、持続可能な生物多様性の保全に取り組んでいる。

3000m級の高峰が南北約50kmにわたって連なる南アルプスは、ユネスコエコパークにも登録された生命の宝箱だ。中でも、2〜300種が生育するという高山植物には、氷河期に北極圏

から広まった遺存種や固有種、分布の世界的南限種といった希少な種が多く、6種が県の条例で指定希少野生動物植物に指定されている。一時はニホンジカによる食害で、夏の山稜を彩る「お花畑」が消失の危機に陥ったが、現在は防鹿柵の設置等の活動により、対策箇所では回復傾向にある。

高校生が国内初の成果

令和2年度、静岡市北部と川根本町を含む南アルプス地域で新たなプロジェクトがスタートした。

県は昨年、ふじのくに生物多様性地域戦略の推進と次世代への継承を目的に、協働で活動する

よって毎週アップされる内容は、秘境の景色、環境保全活動、山ご飯の紹介などバラエティ豊か。英語版も制作し、南アルプスの多彩で多様な魅力を世界へ向けて発信している。

学術調査未開の地を

UAV（無人航空機）調査

こうした活動を継続、強化するため、県は昨年11月より、南アルプスの環境保全を目的とするふるさと納税の受け入れを開始した。約2ヶ月で150件を超える申請が寄せられ、これまでの取り組みの成果を感じ取れる。

令和3年度はセカンドステップとして、主となる4つの斬新な企画が始まる。

一番の注目は、日本初のUAVを使った絶滅危惧種の調査だ。手つかずの自然が残る南アルプスは未解明の部分が多い。そこで、人も鹿も立ち入ることができない天空の「お花畑」をドローンで捜索し、高画質（4K以上）動画で撮影。人類が初めて目撃する映像は、未知なる種の発

「推進パートナー」制度を新設した。その第一弾として、南アルプスの希少な高山植物を守るべく、県立磐田農業高校にパートナーを委嘱。絶滅危惧種のタカネマンテマを種子から育て、種を採取するプロジェクトに取り組んだ。結果、国内初となる凍結種子からの発芽に成功し、県内で生育が確認されている個体数を上回る60株以上が発芽し、順調に栽培されている。

魅力を動画で「世界へ」

南アルプスの年間登山者数は約60万人と、北アルプスの約900万人に対し極端に少ない。県内に限れば、わずか3万人程度

見につながる可能性もあり、夢は膨らむばかりだ。

2つ目は、大井川の「最初の一滴」の動画配信だ。南アルプスは、大井川、富士川、天竜川の水源地。県は日本第3位の高峰・間ノ岳へ大井川の源流をたどり、命の水が生まれる瞬間を撮影、配信する予定だ。

3つ目は高山植物の種子保存プロジェクト第二弾。新規パートナー校が県の絶滅危惧II類オオサクラソウの増殖に着手する。この花は、県内では生育場所が千枚岳周辺のみという希少種で、初の生息域外保存に挑戦する。

4つ目は、YouTubeチャンネルの開設だ。虫の専門家など、様々なジャンルで南アルプスに携わる人が講師となり、よりコアでアカデミックな講座をオムニバス形式で配信する。

まずは、身近にある世界の宝、南アルプスを知ること。それが偉大な自然を守り、生物多様性に恵まれた理想郷「ふじのくに」を後世へつなぐ第一歩だ。



YouTubeチャンネル「南アルプスを守るお話」。職員の山崎さんが自ら山に登り、動画を撮影・編集している。



「身近に、世界に誇れる素晴らしい自然環境があることを知ってほしい」と語る山崎さん。



種子保存プロジェクトではセミナーも開催。高校生たちは南アルプスへの興味を深めた。



タカネマンテマの種子増殖に取り組む磐田農業高校の生徒たち。前例のなかった冷凍種子からの発芽に成功。



種子保存に挑戦するオオサクラソウ。静岡県が分布の南限。県の指定希少野生動物植物に指定されている。



タカネマンテマは氷河期の遺存種。県内の生育数は50株にも満たないという（国と県の絶滅危惧種に指定）。